

熊毛海区漁業調整委員会委員候補者の推薦及び応募状況【最終公表】

漁業者・漁業従事者委員

1 個人推薦
なし

2 団体推薦
以下のとおり

番号	推薦を受けた者（被推薦者）										推薦した者（推薦者）				
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	漁業経営状況		漁業法第138条第5項に定める漁業者又は漁業従事者である	団体等名称	代表者職・氏名	団体等の性格		人数	構成員たる資格	推薦理由
						従事年数	主な漁業種別				目的	業務内容			
1	うらべ みちお 浦邊 美智生	65	男性	漁業	昭和53年3月 昭和53年4月 昭和60年8月 昭和61年4月 令和3年6月 令和6年1月 鹿児島県立中種子高等学校卒業 西鉄運輸株式会社入社 西鉄運輸株式会社退社 南種子町漁業協同組合加入 南種子町漁業協同組合理事就任 南種子町漁業協同組合代表理事就任	38	一本釣り漁業 モジャコ漁業	○	南種子町漁業協同組合	代表理事組合長 浦邊 美智生	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産力を上げ、もって組合員の経済的社会的地位を高めること	・水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・組合員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売 など	正組合員 30名 准組合員131名 計 161名	【正組合員資格】 この組合の地区内に住所を有し、かつ1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民 ほか	昭和61年より一本釣りに従事。またモジャコ漁の乗り子として従事した。その後独立し、現在は一本釣り、建て網、モジャコ漁など正組合員として漁業に携わっている。 令和3年6月より南種子町漁業協同組合の理事に就任し、令和6年1月より代表理事組合長を務め現在に至る。また、南種子町漁業協同組合の監事、南種子モジャコ生産者協議会の会長、鹿児島県漁協青年部連合会の会長を務めた。 地元漁業者はもとより各漁業関係者からの信頼も厚く、これまでの経験と実績を生かし、今後の地域漁業発展に向けて意欲的に活動することができると期待されるため推薦する。
2	いとう ちゅうさぶろう 伊東 森三郎	66	男性	漁業	昭和55年9月 昭和55年10月～現在 平成24年4月～平成29年3月 平成28年8月～現在 海技大学中退 一本釣り漁業に従事 種子島漁業協同組合理事 熊毛海区漁業調整委員会委員	45	モジャコ漁業 一本釣り漁業	○	種子島漁業協同組合	代表理事組合長 荒河 勝文	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産力を上げ、もって組合員の経済的社会的地位を高めること	・水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・組合員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売 など	正組合員107名 准組合員297名 計 404名	【正組合員資格】 この組合の地区内に住所を有し、かつ1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民 ほか	昭和55年より一本釣りに従事し、主に一本釣り、モジャコ漁を営み、種子島漁業協同組合理事、熊毛海区漁業調整委員会委員を務めるなど地域漁業者の中心的な存在として長年活躍している。 瀬戸類、カンパチ一本釣りに関しては豊富な知識と経験を有しており、その技術を若手漁業者に対して、（漁法及び漁業経営）指導を行うなど地域漁業に大きく貢献している。 誠実な人柄を含め、地元漁業者からの信頼は厚く、本人も海区漁業調整委員会委員の職責を理解し、今後の地域漁業の発展に向けての活動に高い意欲をもっていることから適任である。
3	おくむら ひろみ 奥村 洋海	54	男性	漁業	平成元年3月 平成元年4月 平成3年12月 平成4年3月 平成7年11月 平成7年12月～現在 令和3年4月～現在※ 種子島実業高等学校卒業 日本電気フィールドサービス株式会社入社 日本電気フィールドサービス株式会社退社 関西ゴルフクラブ入社 関西ゴルフクラブ退社 一本釣り漁業に従事 熊毛海区漁業調整委員会委員	29	モジャコ漁業 一本釣り漁業	○	種子島漁業協同組合	代表理事組合長 荒河 勝文	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産力を上げ、もって組合員の経済的社会的地位を高めること	・水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・組合員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売 など	正組合員107名 准組合員297名 計 404名	【正組合員資格】 この組合の地区内に住所を有し、かつ1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民 ほか	平成7年より父親とともに一本釣りに従事し、平成12年より独立する。主に一本釣り、モジャコ漁を営み、モジャコ生産者協議会会長、漁協青年部会長を務めるなど地域漁業者の中心的な存在として長年活躍している。 特にカンパチ、水イカの一本釣りに関しては豊富な知識と経験を有し、漁協内において大型魚種取扱部選定に助言するなどの実績がある。 誠実な人柄を含め、地元漁業者からの信頼は厚く、本人も海区漁業調整委員会委員の職責を理解し、今後の地域漁業の発展に向けての活動に高い意欲をもっていることから適任である。

4	はまきき かずなり 浜崎 一成	53	男性	漁業	昭和62年4月 平成2年3月 平成2年4月 平成21年4月 令和3年6月 令和5年7月～現在※	鹿児島水産高校入学 鹿児島水産高校卒業 父のもと漁業に従事 独立 種子島漁業協同組合理事に就任 熊毛海区漁業調整委員会委員	33	一本釣り漁業	○	種子島漁業協同組合	代表理事組合長 荒河 勝文	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産力を上げ、もって組合員の経済的地位を高めること	・水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・組合員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売 など	正組合員107名 准組合員297名 計 404名	【正組合員資格】 この組合の地区内に住所を有し、かつ1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民 ほか	平成2年、鹿児島水産高校を卒業と同時に父のもと、一本釣り漁業に従事した。その後平成21年に父から独立し、現在は長男と一本釣り漁業を主に営んでいる。 青年部会長、モジャコ生産者協議会の会長等を歴任し、現在は組合理事として地域漁業者の中心的存在として活躍している。 特に一本釣りに関しては豊富な知識と経験を有し、熊毛海域のマチ類資源管理にも積極的に取り組んでいる。 誠実な人柄を含め、地元漁業者からの信頼も厚く、本人も海区漁業調整委員会委員の職責を理解し、今後の地域漁業の発展に向けての活動に高い意欲をもってのことから適任である。
5	はが たかゆき 羽生 隆行	73	男性	漁業	昭和44年3月 昭和52年7月 昭和53年 平成11年6月 平成16年6月 平成26年6月～現在	県立屋久島高校卒業 (株)アマダ 退社 漁業へ従事 屋久町漁業協同組合 代表理事組合長 就任 屋久町漁業協同組合 代表理事組合長 退任 屋久島漁業協同組合 代表理事組合長 就任	46	一本釣り漁業	○	屋久島漁業協同組合	代表理事組合長 羽生 隆行	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産能力を上げ、もって組合員の経済的地位を高めること	・水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・組合員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売 など	正組合員 91名 准組合員 92名 計 183名	【正組合員資格】 この組合の地区内に住所を有し、かつ1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民 ほか	昭和53年より、一本釣りに従事し、長年活躍している。屋久島漁業協同組合の代表理事を務め、近年では屋久島漁業協同組合の代表理事組合長の3期目を務めている。地域漁業の活動に尽力し、豊富な知識と経験を有している。誠実な人柄を含め、地元漁業者からの信頼も厚く、本人も海区漁業調整委員会委員の職責を理解し、今後の地域漁業の発展に向けての活動に高い意欲を持っていることから、適任である。
6	とち やすのり 頼 保徳	70	男性	漁業	昭和48年3月 昭和50年2月 平成10年6月 平成16年12月 平成16年12月 平成19年6月 平成20年8月 平成28年8月	県立 屋久島高校 卒業 漁業へ従事 上屋久漁業協同組合 理事 上屋久漁業協同組合 理事退任 屋久町漁業協同組合 理事 屋久島漁業協同組合 理事退任 熊毛海区漁業調整委員会委員就任 熊毛海区漁業調整委員会委員退任	49	一本釣り漁業 モジャコ漁業	○	屋久島漁業協同組合	代表理事組合長 羽生 隆行	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産能力を上げ、もって組合員の経済的地位を高めること	・水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・組合員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売 など	正組合員 91名 准組合員 92名 計 183名	【正組合員資格】 この組合の地区内に住所を有し、かつ1年を通じて90日を超えて漁業を営み又はこれに従事する漁民 ほか	昭和50年より、一本釣りに従事し、上屋久漁業協同組合の理事を3期務めるなど、地域漁業者の中心的存在として長年活躍している。現在、漁業者の担い手育成にも尽力しており、地元漁業者からの信頼も厚く、本人も海区漁業調整委員会委員の職責を理解し、なお一層の地域漁業の発展に向けての活動に高い意欲を持っていることから、適任である。

※ 県水産振興課による参考追記

3 応募
なし

熊毛海区漁業調整委員会委員候補者の推薦及び応募状況【最終公表】

学識経験委員

1 個人推薦 なし

2 団体推薦 以下のとおり

番号	推薦を受けた者（被推薦者）					資源管理及び漁業経営に関する学識経験	団体等名称	代表者職・氏名	推薦した者（推薦者）				
	氏名	年齢	性別	職業	経歴				団体等の性格		構成員		推薦理由
									目的	業務内容	人数	構成員たる資格	
1	えばた けいこ 江幡 恵香	51	男性	大学 教員	平成3年3月 富山県立高岡南高等学校卒業 平成4年4月 北海道大学水産系入学 平成8年3月 北海道大学水産学部漁業学科卒業 平成8年4月 北海道大学大学院水産学研究所漁業学専攻入学 平成10年3月 北海道大学大学院水産学研究所漁業学専攻修了 平成10年4月 北海道漁業協同組合連合会入会 平成11年11月 北海道漁業協同組合連合会退職 平成11年12月 鹿児島大学水産学部助手 平成19年4月 鹿児島大学水産学部助教 平成22年7月 鹿児島大学水産学部准教授	種子島や屋久島などの離島漁業において、資源管理のための沿岸漁場造成や漁業経営改善のための漁業技術開発に取り組んできた実績を有している	鹿児島大学 水産学部	学部長 西 隆一郎	水産に係わる学術研究、地域活性化、大学教育の機会均等	水産に係わる教育・研究・社会貢献の推進	教員45人	教育・研究・社会貢献・国際交流・組織運営の実績に基づき、農水産獣医学域水産学系会議でこれまで新たな知見を数多く見いだしており、各種学会等で報告している。このように職務内容の理解及び意欲と、漁業に関する知識及び知見に優れていることから、熊毛海区漁業調整委員会の学識経験委員候補者に推薦する。	

3 応募 以下のとおり

番号	応募した者（応募者）					資源管理及び漁業経営に関する学識経験	応募理由
	氏名	年齢	性別	職業	経歴		
1	おりた かずみ 折田 和三	65	男性	団体 職員	昭和53年3月 埼玉県立浦和西高校卒業 昭和58年3月 鹿児島大学水産学部学科卒業、修士課程中退 昭和54年4月～昭和60年3月 鹿児島県庁入庁、漁政課 昭和60年4月～平成2年3月 南薩地区水産業改良普及所、鹿児島地区上屋久町駐在水産試験場、出水駐在、漁業監理係、専門技術員 平成2年4月～平成18年3月 水産技術開発センター食品安全部長 平成18年4月～平成21年3月 農政部食の安全推進課技術主幹 平成21年4月～平成23年3月 水産技術開発センター漁場環境部研究主幹 平成23年4月～平成26年3月 水産振興課技術補佐、水産流通対策監、水産振興課長 令和元年4月～令和2年3月 鹿児島県庁退職 令和2年6月～現在 鹿児島県無線漁業協同組合参事 令和2年12月～現在※ 鹿児島県内水面漁場管理委員会委員	鹿児島県職員として37年間勤務する間、水産職員として行政、普及、研究業務に従事した。この間、資源管理に関しては、普及員の頃に漁業者の資源管理の取組への助言や種苗放流後の調査、漁業監理係の頃にTAC県計画の策定やマテ類の広域資源管理の取組に従事した。 また、漁業経営に関しては、専技の頃に漁業者の経営状況調査と分析を行い、若手普及員を指導した。	我が国周辺の漁獲量は、1984年をピークに遠洋漁業、沖合漁業を中心に減少を続けているが、この漁獲量の減少は、資源量の減少はもとより、国際的な漁獲制限に加え、漁業就業者の減少、消費者の魚離れなども大きく影響している。 2018年に漁業法が改正され、資源管理については最新の科学的知見を元に資源管理の目標を設定し、TACで管理を行い、MSY理論も導入されるようになった。 さらに、これまで地域で資源管理されていた魚種も資源評価対象として大幅に拡大することされている。 海区漁業調整委員会では、TACをはじめ、漁場計画や委員会指示などが議論され、漁業法の目的達成のため運用されていると理解している。 本県の水産業は漁獲量や漁業就業者の減少が続く等依然として厳しい状況には変わりないが、これまでの知識や経験を元に水産業を持続的産業として存続させられるよう貢献したいと考え応募した。

※ 県水産振興課による参考追記

熊毛海区漁業調整委員会委員候補者の推薦及び応募状況【最終公表】

中立委員

1 個人推薦

なし

2 団体推薦

以下のとおり

番号	推薦を受けた者（被推薦者）						推薦した者（推薦者）						
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	海区漁業調整委員会の所掌に属する事項に関し利害関係を有しない	団体等名称	代表者職・氏名	団体等の性格		構成員		推薦理由
									目的	業務内容	人数	構成員たる資格	
1	いなもりしげひろ 稲盛 重弘	66	男性	団体職員	昭和57年3月 鹿児島大学大学院水産学研究科修了 昭和57年4月 鹿児島県庁入庁 昭和57年～平成28年3月 漁業調整業務等各水産行政及び試験研究業務に従事 平成28年4月～平成30年3月 水産技術開発センター資源管理部長 平成28年4月～平成30年3月 鹿児島県資源管理協議会委員 平成30年3月 鹿児島県庁退職 平成30年6月 鹿児島県漁業協同組合連合会入会 令和2年5月～ 令和3年4月～	○	鹿児島県漁業協同組合連合会	代表理事 会長 市田 恵八朗	目的 ・ 会員が協同して経済活動を行い、所属員の漁業の生産効率の向上等その事業の振興を図り、もって所属員の経済的社会的地位を高めること	業務内容 ・ 水産資源の管理及び水産動植物の増殖 ・ 水産に関する経営及び技術の向上に関する指導 ・ 所属員の事業に必要な物資の供給 ・ 所属員の事業に必要な共同利用施設の設定 ・ 所属員の漁獲物その他の生産物の運搬、加工、保管又は販売など	47会員	この連合会の地区の全部若しくは一部を地区とする漁業協同組合若しくは漁業協同組合連合会	稲盛重弘氏は、36年間にわたり水産行政、試験研究等に係る業務に携わり、漁業制度や本県の漁業の状況についてよく理解している。水産技術開発センターでは、資源管理部長を歴任し、資源管理の推進に関わった。また、平成28年、29年には鹿児島県資源管理協議会の委員に就任しており、資源管理の推進に関わった。また、令和3年4月あら現在まで熊毛海区漁業調整委員に就任しており、資源管理についての知識や重要性について把握している。これらのことから、熊毛海区漁業調整委員会委員に推薦するものである。
2	やいたしけんすけ 八板 俊輔	71	男性	西之表市長	昭和44年3月 西之表市立榕城中学校卒業 昭和47年3月 鹿児島県立鶴丸高等学校卒業 昭和52年3月 早稲田大学政経学部卒業 昭和52年4月 朝日新聞社入社 朝日新聞社退社 平成24年6月 西之表市長当選（1期）～現在に至る 平成29年3月 熊毛海区漁業調整委員会委員 平成29年6月～現在※	○	種子島屋久島振興協議会	会長 八板 俊輔	熊毛地区内にある市町及び支庁相互の緊密なる連絡調整と相互協力により熊毛地区内の開発を促進し、あわせて郡民の所得、生活、福祉及び文化の向上を図ること	離島振興事業に関すること ・ 離島振興に必要な各種調査整備に関すること ・ その他本会の目的を達成するために必要な事項に関すること	8名	熊毛地区の首長及び議長	西之表市は、漁業者数及び漁業水揚げともに熊毛管内において最も多いなど、漁業の盛んな地域であり、同市の市長である八板氏は漁業に関する見識も深く、また水産施設に関する取り組みも積極的であるなど、熊毛地区の中立委員として適任である。

※ 県水産振興課による参考追記

3 応募

なし